

ワークショップ資料

聖心女子大学グローバル共生研究所が運営する展示・ワークショップスペースBE*hive(ビーハイブ)では、展示の学びをより深めるためのさまざまなワークショップを実施しています。展示を見るだけでは得られない気づきや発見を、ワークショップの専門家が引き出します。



※BE*hiveにおけるワークショップの企画・運営は、聖心女子大学グローバル共生研究所と認定NPO法人開発教育協会(DEAR)が共同で行っています。

ワークショップ 気候変動(基礎編) 第1期版

—気候変動の現状と原因を知ろう—

異常気象や高潮、海面上昇、干ばつなどによって生活が脅かされている人々のエピソードを読んで理解を深め、自分たちの生活とのつながりを考え、身近な問題として捉え直します。

- 【ねらい】 ● 気候変動に関する問題に興味関心を持ち、身近な問題として捉え直す。
● 気候変動によって生活が脅かされている人や、気候変動の問題に対して声をあげている人について知り、自分事として考える。

エピソード 地域住民のエピソードをもとに作成。名前・イラストは架空のものです。

エミールさん
(インドネシア)



ゆっくりと、でも確実に迫りくる脅威

私はインドネシアのジャワ海に面するバンドウンガン村で暮らしています。稲作とジャスミン栽培が盛んな小さな村です。

しかし、2008年頃から急速に海水の浸水範囲が広がり始めました。まず畑のあたりから浸水が始まり、それから道や通りへと広がっていきました。それは毎日続き、とうとう家の中まで浸水しました。水位は時に屋内で50cmまで達しました。家や通りには汚水の混ざった海水が侵入し、皮膚病や下痢などの感染症も蔓延しています。村の住民は、家の床高*を毎年50cmずつ上げています。

米農家をやめて、魚の養殖業へ

私は米農家として、稲作農業を行ってきました。しかし、2008年頃から急速に海水の浸水範囲が広がり、2011年に水田の5割が浸水しました。2013年には、全ての水田が水没しました。おかげで、水田は一切使い物にならなくなりました。

仕方がなく、浸水した水田を魚の養殖池に転換しました。しかし、水かさが増え続けたことで、魚が網の上から逃げ、養殖に失敗しました。そこで、現在は魚や海藻の養殖を組み合わせでやりくりしています。海藻の収入で、何とか今までの被害をカバーできればと願っています。

もうどうにもならない

地方政府からは、浸水によって衛生環境が悪化しているため、地域住民自ら、ごみを減らし、スラム地区や下水の管理をしていくよう言われています。浸水の被害を抑えるために海岸沿いでマングローブ**の植林などを行っています。でも、気候変動の影響を軽減するには、地方政府だけではどうにもなりません。

市は地域住民に対して、浸水への「適応」の努力をするよう促していますが、「損失」と「被害」から立ち直るには十分とはいえません。たった数年で、生計手段も健康な生活も、そして農村文化も失われたのです。この村が生き残っていくためには、防波堤や堤防を建設し水を抑えたりするような対策だけでは、もうどうにもならないというのが実感です。

*床高…直下の地面、あるいは基準とする地盤面から床の上面までの高さ。

**マングローブ…海水と淡水が混ざり合う水域に生える植物の森。

出典: 認定NPO法人FoE Japan

カマラさん
(スリランカ)



田んぼから水が消えた

雨が降らなくなって2年経ちます。農家は大変です。畜産農家は牛や豚などの家畜にやる水が無いと嘆いています。

干ばつによって、多くの畑が被害を受けました。過去と比べての今年の干ばつは特にひどいです。雨期*なのに干ばつが起きているのです。

とにかく自分たちの飲み水さえ無く、給水タンク車からもらっています。農業を営んでさやかに暮らすということさえ、水不足のせいではないのです。でも政府の支援は全くありませんでした。水タンクとジャガイモ4kgの支給があっただけです。米や乾物の配給があったところもあると聞きましたが、ここではなかったですね。

人々に迫る危機

今は水不足ですが、一旦雨が降り始めると今度は止まないのです。台風や洪水はひどくなっていて、1か月降り続いたりします。そして人々は病気になっています。新型の病気が広がっています。

* 雨期…ある地域でおよそ1か月にわたって雨量の多くなる期間のこと。

きれいな水が生活に必要です。でも今じゃ、水の値段も上がっていて、人々は困難に直面しています。

私たちの声は大国に届いているだろうか？

地球や人材や環境はいくつかの大国**のためだけにあるのではない。ここでは皆とてつもなく困難な暮らしをしています。それなのに、大国の人々は月や他の星に到達するほど進歩しています。

自然環境からの影響によって、人類は減びるでしょう。意味のない無駄な巨大建設事業は停止されるべきです。大国は破壊の規模を最小限に抑えるべきです。そうなれば、私たち小国の人間にも成長するチャンスが来るかもしれません。

** 大国…国際的に影響力をもつ国々。

出典:認定 NPO 法人 FoE Japan

マリアさん (フィリピン)



まさか海から大波が来るなんて

2013年11月に巨大台風ヨランダ(フィリピン名、日本では台風30号)がフィリピンを襲いました。ヨランダが横断したフィリピン中部地方は、強風と局地的な低気圧による高潮*のため、甚大な被害が出ました。なかでも私が住むレイテ島の中心都市タクロバンは、港の最も奥にあったので高潮が最大6メートルにもなり、沿岸部はすべて大波にのめられました。

あの日は朝4時くらいから雨が降っていました。嵐の前日のような強い風が吹いていました。6時になると海の水位が上がってきました。避難先の学校から丘の方に行こうとしたけど、水かさが増してきてたどり着けませんでした。胸の高さまで水が来て、もうすぐ死ぬんだと思いました。動物が溺れているのが見えました、豚や鶏が。私と家族は二階建ての家や高いコナツツの木に登って生き残りました。今も風が怖いです。

私たち本当に復興したかしら？

私の夫は漁師ですが、台風のせいで漁場が破壊されたのか、漁獲量が減りました。家は完全に壊れたので、道端に仮設住居を建ててしばらく滞在していて、今後復興住宅に移る予定です。生活を立て直すにはお金が必要ですが、政府による支援はほとんどなく、国際NGOの支援に頼っています。政府は防潮堤をつくらうとしていますが、被災者は遠くに移住させられるでしょう。漁業が続けられなくなったら、私たちの生活はいったいどうなるのでしょうか。政府はテレビで「すべて日常に戻った」と言っています。私たち本当に復興したかしら？

* 高潮…台風や発達した低気圧が海岸部を通過する際に生じる海面の高まり。

出典:認定 NPO 法人 FoE Japan

気候変動は人間のせいだ

気候変動と台風は深く関わっています。以前は台風はこんなに強くなかったし、高潮なんてありませんでした。これまで生きてきて初めて「高潮」という言葉を知ったのです。また、以前は耐えられる程度の暑さだったのが、今はものすごい暑さになって、乾燥して地面にヒビが入るのです。私がこの状況で思うのは、気候変動は人間のせいだということです。

小林加菜さん (日本)



私は都内の私立大学の3年生で、生態学を専攻しており、生物多様性や生態系の仕組み、野生動物との共生共存を勉強しています。「Fridays For Future Japan」という、気候変動による危機を訴えるムーブメントの発起人のひとりです。

気候変動は命の危機に関わる

幼いころは両親がゲームを買ってくれなかったので、外で遊ぶというオプションしかなかったです(笑)。木登りしたり、ローラーブレードをしたり。田舎に住んでいたわけではなかったけど、自然との距離は近かったです。

気候変動に関心を持った明確なきっかけは覚えていなくて。でも小さいころから、父が環境や貧困などの社会問題を教えていて、いつしか自分の中で環境保全をやりたいという漠然とした思いが湧いてきたんです。

今までは危機感とか感じてなかったんですけど、去年(2018年)の夏は猛暑日や熱帯夜が続いたりして。場所によっては外出禁止令がでるほどの暑さのなか、日本中の人が熱中症で運ばれていることを知ったとき、気候変動は本当に命の危機に関わることなんだなって、身にしみて感じました。

若いからこそできることがある

2018年8月にスウェーデン出身のグレタ・トゥーンベリさん(当時15歳)が、気候変動への危機感を胸に国会前でひとりぼっちのストライキを行いました。彼女の活動はSNSで瞬く間に広がり、現在は40か国以上の国の若者が毎週金曜日に学校を休んで「Fridays For Future」というムーブメントに参加しています。

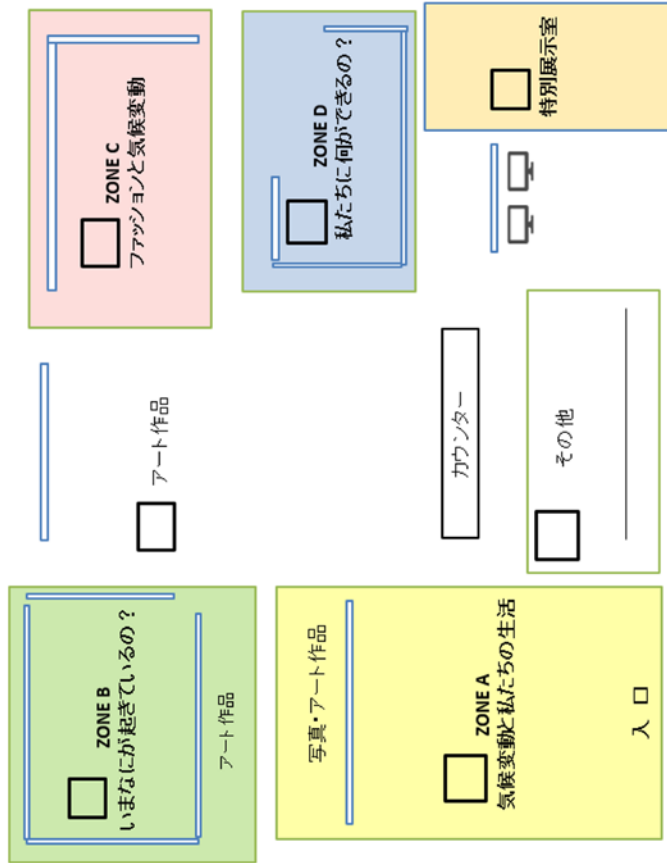
私は彼女のスピーチを見て、自分より年下の子が行動していたことに衝撃を受けました。私もグレタさんと同じように気候変動の脅威には焦りを感じていたし、「そう思ったなら私もやらなきゃ!」という風に思ってたって「Fridays For Future Japan」を始めました。

やっぱり、世界では「おとな」でなく若者たちが動いているわけで。私は先進国に生きてきて、何不自由なく豊かに生活しているけど、そんな生活の裏で気候変動の影響を受けて苦しんでいる人がいるってこともずっと前から分かっていたんです。先進国の日本こそ、気候変動に対して動くべきじゃないかと思います。なおかつ、未来を担っているのは私たち。若い世代が動き出すことはとっても大事なことでと思います。

出典 <http://spiral-club.com/fridays-for-future-japan/>

BE＊hive 「気候変動」 ワークシート

❖ 最も印象に残ったパネルや展示物、写真、映像、キーワードは何ですか？
印象に残ったもの・コーナーに○をつけて、その理由も書いてください。



印象に残った理由

❖ 展示全体を観て、どんなメッセージを受け取りましたか。

氏名 (

)

❖ 私が選んだのは さん (住んでいる国は です)



❖ その方はどういう困難に直面しているのでしょうか？

❖ その方のエピソードで印象に残ったことはなんですか？

❖ もし自分や自分の家族が同じような境遇になったらどうしますか？
何がいちばん大変だと思いますか？何があったら助かると思えますか？

❖ その方のエピソードから、どんなメッセージを受け取りましたか？

ワークショップ 気候変動(基礎編) 第2期版

—気候変動の現状と原因を知ろう—

異常気象や高潮、海面上昇、干ばつなどによって生活が脅かされている人々のエピソードを読んで理解を深め、自分たちの生活とのつながりを考え、身近な問題として捉え直します。

【ねらい】●気候変動に関する問題に興味関心を持ち、身近な問題として捉え直す。

- 気候変動によって生活が脅かされている人や、気候変動の問題に対して声をあげている人について知り、自分事として考える。

エピソード

ケンタロ・オノさん (キリバス)



あこがれの国が故郷に

僕は仙台で生まれ、15歳まで仙台で育ちました。小さい頃から外国、特に南の島に興味があり、小学生の時にテレビでキリバスが紹介されていたのがきっかけで、キリバスが“あこがれの国”になりました。高校1年生の時、どうしても留学に行きたいと思い、キリバスの首都タラワにある高校に編入しました。23歳の時にキリバス国籍を取得し、日本人で初めてキリバス国民となりました。会社を立ち上げて、さまざまな仕事をしました。この美しい島々を故郷と呼べるのはなんて幸運なのでしょう。

海とともに生きる国・キリバス

キリバスは、1979年にイギリスから独立した中央太平洋にある国です。第二次世界大戦中に、日本軍による占領を経験し、日米両軍の激しい戦いが交わされた国でもあります。人口は大体11万人。中央太平洋の東西5000kmに33の島が散らばっています。キリバスの陸地面積は811km²ですが、排他的経済水域*は355万km²もあります。キリバスは、海と一緒に生きていて、海に活かされています。

故郷を離れるという選択を迫られる危機

でも2000年あたりから、温暖化と気候変動の影響を受けるようになりました。海面上昇で土地が削られ、海岸のヤシの木が倒れる光景が当たり前になりました。島々の海拔**は、平均1.5～2mしかありません。首都タラワは東西約40kmありますが、幅は350mしかありません。細長い島なので、ちょっとした天候や海の変化にもすごく脆弱なのです。以前は1年の間の雨季と乾季がはっきりと分かれていましたが、最近は雨がものすごく降る年と降らない年になってきました。今まで経験したことがない嵐もたくさん来ます。海岸線から離れようと走ると、今度は反対側の海岸線に着いてしまうので、逃げるところがない。とにかく怖いのです。

世界銀行の最悪のシナリオによると、2050年に首都タラワの8割が海に沈むと言われています。タラワにはキリバスの人口の半分以上が暮らしています。既に海水が入ってきたため移住が強いられる村もあるのです。

地球温暖化は人災です

ちょっと普段の生活をふりかえってほしい。私たちの食卓にのぼる食べ物は、地球の裏側から毎日たくさんの二酸化炭素を吐き出しながら運ばれてきます。地元の食材より輸入した食べ物のほうが安い。これっておかしくないですか？深夜にコンビニで食べ物や雑誌を買う必要ありますか？

これだけ地球温暖化が言われているのに、電気をつくるために日本はいまだに石炭をつかっていて。ぜひ考えて行動に移してほしいのです。なぜならこの問題は、政治でも科学の問題でもなく、人間の問題なのです。この問題は私たち人間が引き起こしたので、人間が解決するしかないのです。地球温暖化は人災です。人災なので、逆に言うと防ぐこともできるのです。

* 排他的経済水域…沿岸国が水産資源や海底鉱物資源などについて主権的な権利や管轄権をもつ水域。

** 海拔…海水面から測った陸地の高さ。

出典:BE*hive展示「女性と社会的弱者にとっての気候変動」ZONE D パネル①～④より
Kentaro Ono "My Blueprint Living as a I-Kiribati"
<https://www.youtube.com/watch?v=EGaEK0zvgi0>

スミタさん (ネパール)



農作物の収穫が激減、移住する人も

私はネパールのヒマラヤ山脈のふもとの農村で暮らしています。夫と2人の子供と4人暮らしで、農業で生計を立てています。私の住む村では、村人はみんな畑を持ち、米や小麦、とうもろこし、ジャガイモなどを作って生活しています。牛や山羊なども飼っています。

しかし、ここ数年、私たち農家は気候変動によって大きな影響を受けています。予測不能な霧や嵐が発生し、農作物が被害を受けて、収穫が激減したのです。村人の中には貧困に陥り、村での生活をあきらめ、違う土地へ移住する人も続出しています。

農作業も家事も…すべての負担がスミタさんに

私の家の畑も農作物の収穫量が大幅に減少しました。私の夫は収入を補うために数年前から海外に出稼ぎに出ています。そのため、これまで夫が担っていた農作業の仕事や、代わりに私がやることになりました。農作業の中には力仕事や初めてやることも多く、とても大変です。

それに加えて、料理や洗濯などの家事をこなし、子どもや義理の親の世話もすべて一人でしな

ければならなくなりました。生活が楽になるようにと夫は出稼ぎの道を選びましたが、数年たった今も私たちの生活は苦しいままです。

毎日を必死に生き延びている

いま直面している一番の困難は、水不足です。冬期が以前よりも乾燥し、雨期が以前と比べると遅れて始まるようになりました。水源は家から遠いところにあり、生活用水と農業用水の確保がとても大変です。

水を確保できないと、農作物を育てることができず、家族が食べる食事を満足に用意できないこともあります。生きるために食べ物をみんなで分け合い、食料がすぐに底をつかないよう少しずつ食べるようにしています。そうやって毎日を必死に生き延びているんです。

娘たちは学校に通わせていますが、農作業や水の運搬が大変なときは、学校を休んで手伝ってもらうこともあります。でも、私は初等教育までしか受けたことがなく、娘たちにはできればもっといろいろな勉強をしてほしいと願っています。

明らかに、私たちの暮らす村の気候は変化しています。今までの方法で農作業や暮らしを続けていてはダメなのです。でも私たちに何ができるのでしょうか。

出典:BE*hive展示「女性と社会的弱者にとっての気候変動」ZONE D パネル①～④より
※本エピソードは、ネパールに住む地域住民のエピソードをもとに作成しました。名前・イラストは、架空のものです。

ホッキョクグマ (北極圏)



ぼくらの暮らし

ぼくは、地上最大の肉食獣・ホッキョクグマ。北極圏の海に住んでいて、26,000頭くらいの仲間がいるよ。

ぼくらは、生涯のほとんどを氷が張っている海の上で過ごすんだ。氷が張っている11月から7月ごろまでは狩りをして、厚い皮下脂肪を蓄えて厳しい寒さを乗り切るんだ。大好物は、なんといってもアザラシ！ 海氷の上にいるアザラシの群れを見つけたら、そっと海に潜って、氷の端から相手を仕留めるのが得意なんだ。ほかにもセイウチやシロイルカ、水鳥やその卵なんかを食べることもあるよ。

暖かくなって氷が解け始めると、再び海が凍るまで陸で暮らすんだ。でもその間は狩りができないから絶食状態。この時期が一番つらいね。この3～4か月間は、体に蓄えた脂肪分を少しずつ消費していくから、できるだけ春の間にたくさん狩りをするのが大事なんだよ。

本当はおなかいっぱい食べたいのに…

でもね、ここ数年は氷が解けるのが早くなってきてるんだ。狩りをできる期間がだんだんと短くなって、陸で暮らす期間が長くなっている。再び海が凍るまで体力が持たなくて、死んでいく仲間が年々増えている。

これまでぼくらは陸上にいる間は絶食してきたけど、耐えきれなくて陸上で食べ物を探すことも多くなったよ。カナダには毎年繁殖のためにハクガン(渡り鳥)がやってくるんだけど、ハクガンの卵はぼくらの非常食。これを見つけれられたときはラッキーだね。あとは、これまで食料を保存することなんてなかったけど、食べ残しを雪に埋めて、どうしても食料が見つからない時のために取っておくんだ。本当はおなかいっぱい食べたいけどね。

食料を求めて長距離を移動する仲間もいるよ。ぼくはこれまで人間に会ったことはほとんど無いけど、ほかの仲間は人間が暮らす村まで獲物を探しに行っただって。

ねえ教えて、どうしたらもとの暮らしに戻る？

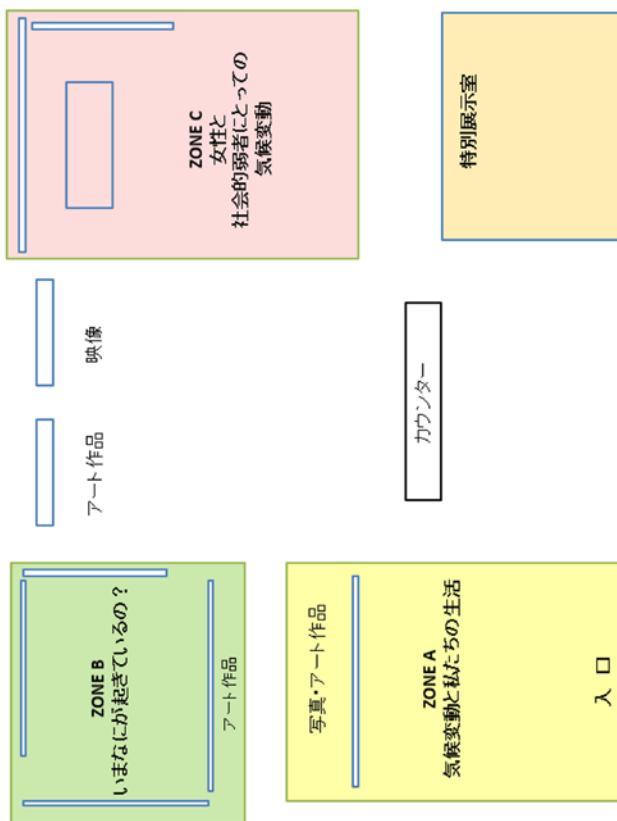
いまは試練の時。ぼくらは人間みたいに簡単に移住できないから、なんとか北極圏で暮らせるよう、知恵を絞って食糧不足を乗り切るんだ。でも、北極圏の氷の面積は年々減少する一方で、ぼくたちホッキョクグマだけではなく、アザラシや他の生き物も影響を受けていて、その数がどんどん減少しているんだ。

人間はぼくらを「絶滅危惧種」って呼んでいて、絶滅する可能性があるっていう研究者もいるんだって。ねえ、どうしたらぼくらは生き延びることができる？ どうしたらもとの暮らしに戻る？

出典:BE*hive展示「女性と社会的弱者にとっての気候変動」ZONE A パネル①②より
「ホッキョクグマ、温暖化を生き抜く4つの適応策」
<https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/15/a/090800033/>

BE*hive 展示見学ワークシート

- ❖ 最も印象に残ったパネルや展示物、写真、映像、キーワードは何ですか？
印象に残ったもの・コーナーに○をつけて、その理由も書いてください。



印象に残った理由

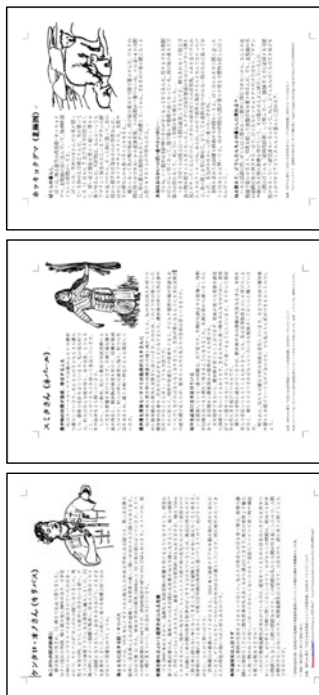
- ❖ 展示全体を観て、どんなメッセージを受け取りましたか。

氏名 (

)

BE*hive 「気候変動（基礎編）」ワークシート

①私が選んだのは _____ さん（住んでいる国・地域は _____ です）



②その方・生き物はどのような困難に直面しているでしょうか？

③エピソードで印象に残ったことは何ですか？

④もし自分や自分の家族が同じような境遇になったらどうしますか？
何がいちばん大変だと思いますか？何があったら助かると思いますか？

⑤このエピソードを読んで、もっと知りたいことは何ですか？
この状況（問題）に対して、あなたができることは何でしょうか？

ワークショップ ファッションと気候変動

—私たちの普段着ている服はどのように作られているのでしょうか—

服づくりに関わる人々の状況を知り、服の適正価格や服づくりを支える労働者の人権問題について考えます。
展示見学では、ファッションと二酸化炭素の排出量や気候変動との関連性について学びます。

【ねらい】●展示見学の導入として、ファッションに関する問題に興味・関心を持つ。

- 私たちの消費の裏で、服の製造現場で働く人がさまざまな影響(劣悪な労働環境、低賃金、長時間労働など)を受けていることを知り、私たちの生活につながる問題として捉え直す。



ワークシート Tシャツの値段とその裏側

1枚3,000円のTシャツが売られています。
その製造や販売に関わる以下の5人は、
3,000円のうちのどれくらいのお金を得られるでしょうか。
それぞれの人々の立場に立って、
金額とその理由を考えてみましょう。

円	2. 縫製現場の工場長	円
私は工場で作っているTシャツを管理し、工場経営にかかる費用を支払います。良い品質のTシャツを作り、納期を守らなければなりません。Tシャツの製造量と納品までのスケジュールは、バイヤーと一緒に決めますが、最近はどうしても短い期間で納品することが求められます。でも断ると仕事がなくなってしまうので、どんな条件でも受けざるを得ません。	円	4. アパレルメーカー
私はTシャツを作っています。決められたデザインどおりに布を切り、ミシンで縫って、アイロンをかけて、袋詰めをします。毎日同じ作業の繰り返しです。朝8時から夜10時過ぎまで残業して働いているのに、休憩時間は少なく、給料もきちんともらえないことがあります。	円	5. 小売業 (アパレルショップ)
私はTシャツを作る工程に関わっています。Tシャツをどこで、どのくらいの期間で作るかを決めます。Tシャツを作るのに必要な繊維なども調達し、材料費を支払います。できるだけ早くそして安くTシャツを作る必要があるため、その条件に対応できる縫製工場を選んでいきます。	円	
私はTシャツを作るかを決めます。最近の流行などを踏まえて、どのようなTシャツが消費者に求められているかを考えることが大切です。Tシャツのデザインをデザイナーにお願いしたり、テレビCMやSNSを使って広報宣伝を行います。また、縫製工場から販売店にTシャツを送るので、その輸送費も支払っています。	円	
私はTシャツをお店で販売します。そのために、店舗を借りる必要があります。そして、お客さんに買いに来てもらえるよう、お店の宣伝をしたり、お店を魅力的な内装にするなどの工夫が必要です。また、お店で働くショップ店員も雇い、その給料も支払わなければならない。	円	

ワークシート 服が作られるまで

原料を生産し、収穫する	原料から繊維を取り出し、糸にする
布を織って、染める	縫製現場で布を加工し、服を作る
完成した服がお店に運ばれる	服がお店で販売される
服を買い、手入れしながら着る	古くなった服が捨てられる

ワークショップ スポーツの祭典と気候変動

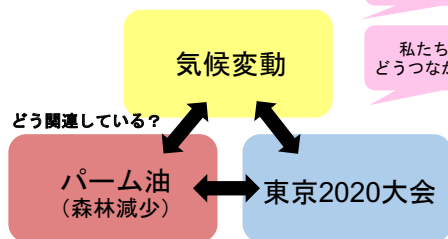
—身近なパーム油に潜む環境問題や人権問題—

私たちの生活に身近なパーム油をめぐる環境問題や人権問題について、写真を使って対話をしながら学びます。展示見学では、東京 2020 オリンピック・パラリンピックが気候変動に与える影響と持続可能性について学び、様々な立場や視点から、気候変動問題の解決に向けてできることを考えます。

【ねらい】●気候変動問題に興味・関心を持ち、身近な問題として捉え直す。

- オリンピック(木材やパーム油の調達に焦点)が気候変動に与える影響を理解する。
- パーム油や気候変動と私たちの生活とのつながりを理解し、私たちに何ができるかを考える。

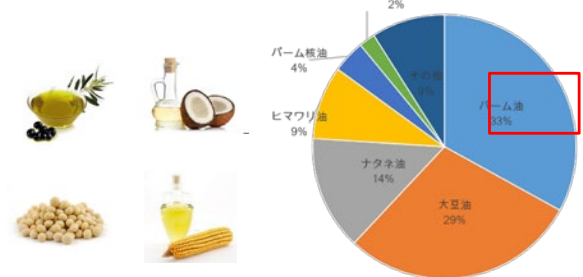
今日のテーマは...



将来世代にわたって、持続可能なのか？

私たちの生活とどうつながっている？

植物油脂といえば？



ワークシート 「パーム油をめぐる問題」

① 【個人ワーク】 ワークショップを通じて、気づいたこと、関心をもったこと、疑問に思ったことなどを書きましょう。

② 【グループワーク】 ①で書いたことを、以下のカテゴリーで整理しましょう。グループの他の人の意見も、書き入れましょう。

環境	人権
開発	わたしたち
その他 ()	

③ 【個人ワーク】 全体を通して、気づいたことやもっと知りたいこと、他の人の話を聞いて思ったことなどを書きましょう。

氏名 ()

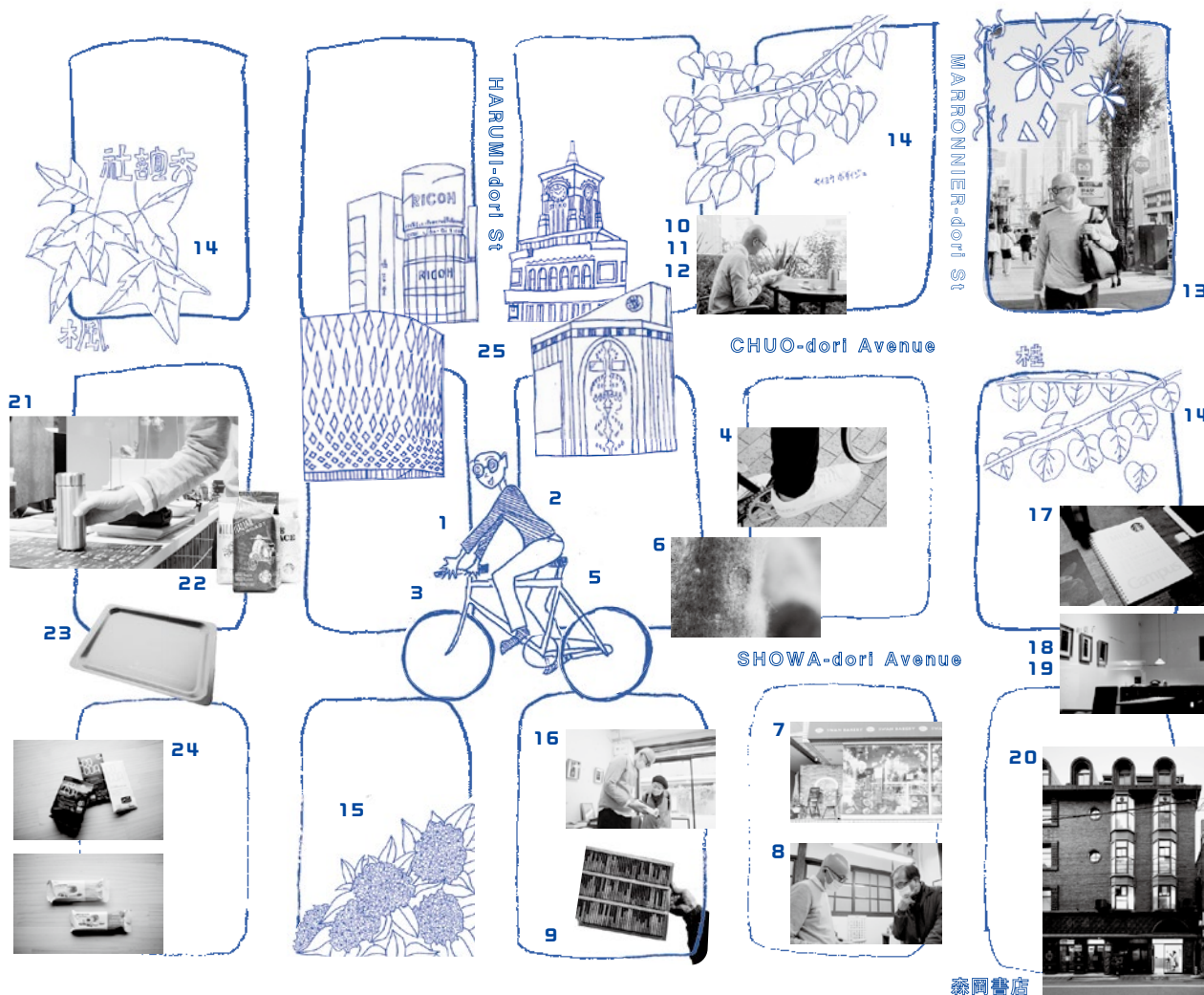
ワークショップ 気候変動(基本編)+気候アクション

—気候変動の解決に向けたアクションとは—

気候変動の基礎知識を「ファッション」、「女性と社会的弱者」、「パーム油」などの視点から学ぶことから始まり、社会の仕組みや自分の暮らしを変える気候アクションを見つけ出し、気候変動の解決に向けた対策や手段について考えます。

【ねらい】 ●気候変動の問題やその影響・被害を大きな枠組みで捉えなおす。

●気候変動問題の解決に向けた対策や手段を知り、自分にできることを考える。



1. プラダ ReNylonバッグ
2. 佐藤繊維「RaYS〈レイズ〉のニット」
3. 自転車移動
4. アディダスのリサイクル
ポリエステルスニーカー
5. パタゴニアのパンツ
6. ダーニングで長く着る
7. 買うことで福祉活動を応援
8. 銀座との繋がり
9. 活版印刷
10. 古本

11. 屋上公園
12. ホットでできる場所
13. 歩いて街を再発見
14. 街路樹
15. 街なかの花
16. 様々な世代との関わり
17. 再生紙のノート
18. 愛着の生まれるものを選び
19. 小さな灯
20. 古き良き建物

21. マイボトル
22. フェアトレードのコーヒー
23. 再利用什器
24. 作り手のわかる食べ物
25. 多文化の共生

④【私の気候アクションその2】

自分の暮らす街や好きな街を歩いて、「私にとってのサステイナブルな街の豊かさ」を再発見してみよう。具体的には、動画「ハレの銀座」部分や別添の MAP を参考に自分のマップを描いてみよう（街で発見した「豊かさ」を写真に撮ってマップにおとしても OK）。

ワークシート「わたしの気候アクション」～自分の暮らしを変えよう編～

①森岡督行（もりおか・よしゆき）さんの動画「未来へ手渡す、豊かさの多様性」を見て、最も印象に残った場面や言葉、光景などを書いてみましょう。また、なぜ印象に残ったのか、その理由も書いてみましょう。

②これまでのあなたのライフスタイル（生活習慣）を振り返って、サステイナブルだと思うことや、もう少し工夫が必要だと思うことを書いてみましょう。

③【わたしの気候アクションその1】

都会で暮らすあなたにできることや、やってみたいことは何ですか？

学籍番号[] 氏名[]